令和８年度　京都府立京都すばる高等学校　　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）　　（　計画段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
《育てたい生徒》 〇生徒の生涯におけるキャリア形成の礎となる、社会人としての一歩を踏む出す力を備えた、社会から必要とされる人を育てる。 〇進路として就職を選んだ場合も、自らの資質能力向上にむけ、リカレント学習やリスキリング学習に取り組む人材を育てる。 〇進路として進学を選んだ場合も、仕事によって社会の役に立つ志を持ち学習を続ける人材を育てる。 **《育てたい資質・能力》**～社会人としての一歩を踏み出す力～ １　Shine～明るく・輝く～ 前向きな人、明るく活気のある職場をつくる力 ２　Union～調和～ 内にも外にも開かれ、チームの多様性を認める力 ３　Business～勤労～ ビジネスマナーと資格取得、使いこなせる学力 ４　Action～実行～ 自立心のある人、課題解決の視点 ５　Robust～たくましく 何があっても立ち上がるしなやかな力 ６　Unite～一つになる～ 自他への敬意がある人、円滑な対人関係を築く力	① 主体性を育てる学校 キャリア教育や行事を通して主体的に活動する生徒が増加した一方、学習習慣や生活面の乱れが見られ、体系的な指導の充実が課題である。 ② 専門的知識とスキルを習得させる学校 検定合格率や大会出場など専門性は向上したが、全国入賞や新課程に対応した指導法、授業内容の一層の充実が求められる。 ③ 規律を守らせる学校 生徒主体のルール作りは進んだが、遅刻やマナー面の課題が残り、継続的で効果的な生活・規律指導が必要である。 ④ ３観点の学力を向上させる学校 補習等により学力や合格率は向上したものの、模試・実力テストの分析活用が不十分で、進路指導への活用が課題である。 ⑤ 生徒一人ひとりに寄り添う学校 教育相談や特別支援体制は充実したが、遅刻・欠席の増加など生活習慣の定着には課題が残っている。 ⑥ 学校のDXを加速させる学校 ICT環境整備と授業活用は進んだ一方で、全校的な活用や分掌連携、主体的なDX推進体制に課題がある。 ⑦ 安心・安全な学習環境を整える学校 危険箇所対応や設備改善は進んだが、事務部からの主体的な企画提案や組織的な連携が十分とは言えない。 ⑧ 競技力や表現力を高める学校 大会での好成績を収めた一方、部員数確保や活動活性化に向けた継続的な取組が課題である。 ⑨ 専門学科の強みを生かした進路実現 進学・就職支援は成果を上げたが、進路実現に直結する学習習慣や学力向上にさらなる指導が必要である。 ⑩ 本校の魅力を内外に伝える学校 志願者数は維持できたが、HP更新頻度が低く、校内外への計画的・継続的な情報発信の強化が課題である。 ⑪ 教職員がチームになっている学校 課題が発生するたびに、教職員一同が連携して、その解決に向けて一丸となって取り組めた。	重点目標１　本校が大切にする、学校の目標 ① 自ら考え行動する主体性を育てる学校 ② 専門性的知識とスキルを育成する学校 ③ 規律を重んじる学校 ④ ３観点の学力を高める学校 ⑤ 生徒一人ひとりに寄り添う学校 ⑥ 学校のＤＸを推進する学校 ⑦ 安心・安全な学習環境を整える学校 ⑧ 部活動で競技力や表現力を高め心を育てる ⑨ 専門学科の強みを生かした進路を実現する学校 ⑩ スクール・マーケティングで魅力を発信する学校 重点目標２　本校が大切にする、教職員チームの目標 ① 学力が向上する授業研究を進める教職員チーム ② 規律を守り、働きやすい環境作りをする教職員チーム ③ 対話を大切にする教職員チーム ④ お互いにサポートしあう教職員チーム ⑤ 各自の強みを生かして、協働する教職員チーム ⑥ 情報を共有して情報格差の無い教職員チーム ⑦ 魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム ⑧ 課題解決のためのアイデアを創造する教職員チーム ⑨ 目的があいまいな取り組みを削減する教職員チーム

令和８年度　京都府立京都すばる高等学校　　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）　　（　計画段階　）

部	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価			成果と課題
教務部	学習指導	基礎学力の向上を図る	考査前補充を実施する	年間25日以上実施する				
			長期休業中に補充を実施する	8日以上実施する				
	授業力向上	教職員の授業力向上に取り組む	3観点の学力向上に向けた研究授業を、 一人一台端末を利用し実施する	各教科1回以上実施する				
	ICT利活用	学校DX推進を行う	デジタル採点ソフト「採点ナビ」の使用を教職員へ促す	教職員の利用率を80%以上にする				
総務企画部	生徒募集	スクール・マーケティングで魅力を発信する学校①【校外向け】	・「普通科」をなんとなく志願する中学生に専門学科の選択肢を与えるための広報活動（方策の詳細は「生徒募集戦略（※職員会議資料）」参照	次年度前期選抜における志願者数 （商業学科群220名以上、情報科学科90名以上）				
		スクール・マーケティングで魅力を発信する学校②【校内向け】	・授業や行事の様子を校内向けにも発信し、在校生・保護者・教職員の帰属意識や満足度を高める広報活動（方策の詳細は「生徒募集戦略（※職員会議資料）」参照	同上（校内広報が最終的には中学生の募集につながる）				
	図書	図書館の活性化	・総務企画部員で図書館業務や委員会活動を分担する ・各種イベント等を積極的に企画実施する ・授業等で図書館を活用してもらうよう働きかける	図書館の利用者数のべ4,700人以上 授業での図書館利用回数10回以上				
	協働体制	各自の強みを生かして、協働する教職員チーム	・各自の強みを生かすため、対話や議論を大切にして部内のコミュニケーションを行う	部員による評価（中間・最終）				
		魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	・魅力ある高校を目指して様々な取組を推進するとともにその内容を発信していく ・実施後には部内で振り返りを行い、次年度への提言事項を記録し改善につなげる	部員による評価（中間・最終）				
生徒指導部	生活指導	基本的生活習慣の確立（自ら考え行動する主体性を育てる学校）	遅刻確認のシステムを変更し、より生徒の時間や連絡に対する意識の定着を図る。遅刻した生徒には、自らを振り返る内容で指導を行えるようなシートを活用する。	毎朝、登校時の校門での時間を意識する声掛けを行う。校門遅刻指導件数を昨年度より減らす。				
			身だしなみの重要性を指導し、生徒自身に細部にわたり身なりを整える意識を持たせる。日々観察しながら、改善点を確実に指摘する。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。（予定）				
	規律・規範意識	規律性を持ち、約束事を守り、規範意識の向上に努める（規律を重んじる学校）	校則見直し検討委員会（仮）を発足し、現在の校則や規則の見直しのきっかけを作る。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。				
			講話、ＨＲ掲示やスタディサプリなどを活用し、規定や規則の周知を図る。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。（予定）				
	人権	相手の立場に立った言動ができる生徒を育てる	年2回の人権学習や日常のホームルーム、部活動などを通じて、言動に責任を持つとともに、他者への思いやりが感じられる行動を心掛けるよう指導する。	年2回のいじめ調査アンケート調査を行い、評価する。				
	部活動	生徒の主体的な活動を支援する（部活動で競技力・表現力を高め心を育てる学校）	部活動、生徒会活動、各種委員会活動の充実を図る。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。				
	分掌連携	全員が主体的に意見を出し合える風通しの良い生徒指導部を構築する。（対話を大切にする教職員チーム）	業務の進捗確認だけでなく、日々の些細な気づきや悩みを共有できる時間を意識的に設け、相互サポートの体制を作る。	担当以外の教員が副担当やサポートとして関わった案件の割合、または部内会議での意見採用数を増やす。				

進路指導	進路指導体制の拡充	３観点の学力を高める学校	各種模擬試験／実力テストの分析を行い、学習面・生活面・進路意識等についての生徒の実態把握に努める	学年全員が受験する模擬試験／実力テストの分析を実施し、部長会議等で報告する				
		生徒一人ひとりに寄り添う学校	教育相談会議や学年部との連携調整を密にし、配慮の必要な生徒の進路実現についての道筋をつける	配慮が必要な生徒の進路実現への対応するとともに、今後に向けた指導計画を策定する				
		各自の強みを生かして、協働する教職員チーム	所定の分担に従って業務を遂行するとともに、想定外の事象に対して柔軟に対応できる体制を構築する	部会等をとおして定期的に業務遂行状況を確認する				
	持続可能な進路実現方法の模索	専門学科の強みを生かした進路を実現する学校（就職）	就職補習の実施・企業見学の拡充など、就職指導体制の充実を図る	アンケートで８０％以上３年生がの就職指導に対して前向きな評価をしている				
		専門学科の強みを生かした進路を実現する学校（進学）	上級学校との連携を進め、高大連携型をはじめとする生徒の状況に合わせた進路実現の道筋をつける	総合型選抜に対応した小論文及びプレゼンテーション指導体制を構築する				
	キャリア教育の充実	自ら考え行動する主体性を育てる学校	職業分野別講演会や分野別進路体験学習などをとおして、生徒が自身のキャリアを意識し、日々の諸活動に主体的・積極的に取り組めるように指導する	各種アンケートで８０％以上の生徒が前向きな評価をしている				
第１学年	学習指導	学習習慣を確立させる	教室清掃をはじめとして学習、教室環境の整備をし、全員が学習に取り組む雰囲気作りをする。	学校生活全般や各クラスでの生徒の様子を観察することや面談を通して検証する。				
	生徒指導	基本的生活習慣を確立するとともに、問題や課題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、担任団と他分掌が協力して指導する。 個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する。				
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	ICTを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。				
第２学年	学習指導	進路目標を明確化し、授業を大切にするとともに積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成する	学習環境を整備し、日々の授業を大切にするとともに進路ガイダンスを活用し、将来の自己の姿に展望を持たせる	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する				
			業者による模擬試験等を活用し、面談等をとおしてきめ細かに点検する	業者による資料を活用し、学力と学習習慣の改善度合いを検証する				
	生徒指導	基本的生活習慣を確立するとともに、問題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、必要に応じて担任団が協力して指導する。 個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する				
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	スタディサプリなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。				
第３学年	進路指導	個々の希望する進路実現を目指す。	担任による面談等の指導の充実。 進路指導部と対話し意見交換など密に連携することを心がける。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する。				
	生徒指導	自ら考え行動する主体性を育てる。	遅刻・欠課を減らし、基本的生活習慣を身につける。	朝の遅刻状況や授業の出席状況で、評価する。				
	学校運営	生徒一人ひとりに寄り添う学級作りを行う。	保健・教育相談・特別支援各会議の充実を図る。	各会議の担当で、生徒の状況の変化を評価する。				

教育推進	専門教育	専門性を生かし、社会に貢献する意識を育む学校	専門教科等と連携して検定補習を円滑に実施し、生徒の資格取得を推進する。	各検定試験が設定した目標合格率を上回る。 高度資格取得のための講座を開催する。				
			専門教科、各部活動と連携して、専門教育を生かした各種競技大会等への参加を推奨・支援する。	全国入賞を目標とし、全国大会・近畿大会に出場する。				
			地域との協働型の特色ある教育活動の推進を継続する。	振り返りレポートなどを作成し、生徒に気づきと成長が見られる。				
			「専門性ある職業人」「主体性」を育成することを目標として、深い学びを得る場として「京都すばるデパート」を企画し、関係者との「共有」と「協働」を通して主体性と職業人としての意識を持った高度な探究活動を展開する。	準備段階と当日における円滑な運営ができている。 生徒が満足感を持てている。				
	ネットワークシステム	情報ネットワークシステムの維持・管理	情報ネットワークシステムの維持・管理を行う。	情報ネットワークシステムの維持・管理がスムーズにできる。				
			「学校DXの推進」のため、ＩＣＴ研修会等の開催及び活用に向けた情報の発信・提供に取り組む。	ＩＣＴ研修会等の開催及び活用に向けた情報の提供ができる。				
	分掌連携	お互いにサポートしあう教職員チーム	業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る。	分掌会議及び役割毎の会議において、現状の把握と意思疎通ができている。				
保健	自律性の確立	清掃による校内環境保全の徹底	挨拶で始まり挨拶で終わることを大切にし、10分間全てを用いて清掃する。また、トイレと渡り廊下を分けるなど清掃割当を見直し、担当ヶ所を明確にすることで、責任感を育て、丁寧な清掃を実現する。	10分間の清掃時間を全て使って清掃できているか。また、習熟する中でより効果的な清掃方法を工夫しているか。				
		校内の環境保全に向けて、保健委員会を中心に主体的に清掃に取り組む	校内美化に繋がる取り組みを保健委員が主体的に考え、ポスター作成やニュース作成といった啓発活動を行う。	保健委員会の生徒が各クラスの清掃場所の清掃状況を点検し、改善方法を反映しているか。				
	教育相談を組織的に行う	生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制を充実させる	保健指導を充実させるとともに、保健担当者会議・教育相談会議にて、気になる生徒の指導の方向性について情報共有し、今後の対応、指導支援について審議する。また、特別支援およびオンラインコーディネータが連携し、必要に応じてオンライン授業を実施する。	月１回の保健担当者会議、学期に２回の教育相談会議に向けて、学年部・生徒指導部・進路指導部との連携、情報共有を行い、生徒へのきめ細かい対応を行っているか。				
		教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有する	配慮・支援が必要な生徒の情報を保健部内で共有し、対応・支援方法を一致させておく。	配慮・支援が必要な生徒に一致した対応・支援を行っているか。				
	特別支援を組織的に行う	一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導、支援を行う	早期に特別支援が必要な生徒の実態把握を行い、生活や学習上の困難を改善し、社会的自立に向けた指導、支援を行う。状況に応じて外部機関と連携をとる。また、必要に応じて教科担当者会議を開催し、指導、支援の内容について共有する。	特別支援会議を学期に２回開催し、当該生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを行っているか。				

事務部	予算執行	学校の特色化の推進及び活性化を図るための効果的な予算執行	・教育活動、校内会議、広報活動への積極的な参加 ・行政的視点から学校運営に積極的に関わる意識の向上	・目標を実現するための重点的な予算計画と執行 ・事務室を中心とした教職員打合せを適宜実施 ・教職員との積極的なコミュニケーションを図る				
	施設設備 環境管理	安心安全な学校づくり	施設担当者・技術職員を中心に施設設備の定期的な点検を行い、危険箇所を把握する。また、老朽化した施設設備について、計画的に改修を行う。	・月１回程度の定期点検の実施 ・計画的な修繕と改修				
		DX化推進に伴う環境整備	DX化推進のための施設設備の改修計画を行う。	・関係分掌との協議や連携を深める。 ・学校全体のDX化に繋がるよう計画的な学校運営				
	就学支援	経済的不安に対する制度からの支援	・就学支援、奨学金の周知と丁寧な事務手続きを行う。 ・簡潔で分かりやすい案内文書の作成を行う。	就学支援、奨学金等の生徒・保護者・教職員への周知徹底				
		一人一台端末に対する支援制度	・家庭状況に応じて適切な対応を行う。 ・簡潔で分かりやすい案内文書の作成を行う。	各制度を活用してすべての生徒のスムーズな利活用を進める				
	組織体制	事務部の組織体制強化	・各人の資質能力向上に務め、互いに高めあう。 ・報告、連絡、相談体制を確立する。 ・行政的立場からリードする。	・学校の諸課題について、事務室会議で共有する。 ・事務部から企画提案等を行う。				
	生徒指導	規律の徹底	事務室窓口に生徒が来た時に、 〇受付でノックする、もしくは「失礼します」と声かけをするように伝える。 〇学年クラス氏名を言い、何の用件で来たかを伝える。 ように促す。	生徒へ声掛けや窓口に貼り紙をする等で促す。				

学科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価			成果と課題
起業創造科	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		専門性を身に付けさせる（専門科目）	①１年生商業学科群に対し、適切な学科選択を行うために専門科目での授業連携を図る。 ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ③進路実現を見据えた検定試験取得や各種コンテスト応募のロードマップを提示し、生徒の主体的なキャリアの積み上げをはかる ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①生徒アンケート（学科選択の満足度） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験の合格率(全国平均以上)、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）				
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②積極的に外部との連携を行い、探究的な学習を推進する ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況				
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容				
		情報を共有して情報格差の無い教職員チーム						

企画科	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		専門性を身に付けさせる（専門科目）	①１年生商業学科群に対し、適切な学科選択を行うために専門科目での授業連携を図る ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ③進路実現を見据えた検定試験取得や各種コンテスト応募のロードマップを提示し、生徒の主体的なキャリアの積み上げをはかる ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①生徒アンケート（学科選択の満足度） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験の合格率(全国平均以上)、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）				
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況				
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容				
		情報を共有して情報格差の無い教職員チーム						

情報科学科	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（共通教科）	①各教科担当者や担任との連携強化 ②専門教科と共通教科間の連携を図る	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		専門性的知識とスキルを習得させる（専門教科）	①教科・学科の特性を生かした専門教科の内容充実に努める ②連携事業や検定試験、各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）				
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に協働的な探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況				
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（大学・専門学校教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（企業の方、京都府警の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②各専門科目において連携事業等を活用し、新たな取組に向けてのアイデアを創造するチームを作る	①②年間の実施回数および実施内容				
		課題解決のためのアイデアを創造する教職員チーム						

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価			成果と課題
国語	基礎学力の充実	基礎学力の充実を図るための継続的な取り組みを実施する。	全学年において漢字や語句などの基礎学力の定着を図る小テストを実施し、また、小テストに向けて学習する習慣を身に付けさせることを通して基礎的な知識を確実に身に付けさせる。	定期的かつ継続的に小テストを実施し、また、小テストを通して家庭での学習習慣を確立させることができたか。				
		社会人として求められる基礎的な国語力を育成するための取り組みを実施する。	進路実現及びその後の社会生活に役立つ国語力、特に書く能力の向上に資する課題の設定量を昨年度より増加させる。	進学ならびに就職に対応できる程度の書く能力を身に付けさせることができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度の醸成	観点別評価における主体的に学習に取り組む態度を重点的に醸成するための取り組みを実施する。	一人一台端末を効果的に活用し、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を醸成する。	ロイロノートやスタディサプリ等を効果的に活用し、生徒の学習意欲を喚起することができたか。				
		生涯にわたって読書に親しむ態度を身に付けさせる取り組みを実施する。	学校図書館と連携し、生徒が主体的に読書に取り組もうとするきっかけ作りを行う。	生徒に対して読書への動機付けを行うことで生徒の読書量を増加させることができたか。				
	教職員相互の協働	生徒の学習意欲向上に向けた様々な取り組みを相互に提案し、一丸となって生徒に伴走できる教職員集団を作る。	各科目担当者間で綿密に連携し、生徒情報や指導方法等を積極的に共有することを通して生徒の実態に即して指導方法を改善する。	各科目担当者間で生徒情報や指導方法を共有し、それを基に生徒の実態に即した指導を行うことができたか。				
地歴公民	主体性確立	授業における主体的・対話的で深い学びの実現	授業における発問・対話の積極的導入 生徒に文章を書かせたり作業に取り組ませ評価する。	発問対話形式は毎時間 授業アンケートにおいて80%を評価の基準とする				
	自立性確立	主権者・消費者・人権・多様性教育	地歴公民の学習関連関連分野での詳細説明	定期考査では関連分野での得点 その他は、授業後の感想文				
	教員間の連携の強化	魅力ある授業に向けて研究を進める教職員チームを目指す取組	教科会議・授業研究の日・研究授業等を活用し、教科力の向上のため、意見を出し合い協力できるチーム作りを目指す。	一人一人が授業力の向上を目指し努力するとともに、教員間でのチームワーク構築を積極的に行えたか。				
数学	学習指導	基礎の定着を図る。	授業内容の精選、及び中学校までの履修事項とのスムーズな接続を図る。	課題の提出率100%を目指す。基礎学力テストや模擬試験の成績が、入学時より向上するように指導する。				
	進路指導	進路実現のために必要な学力の充実を図る。	生徒の希望する進路に応じて、補習や個別指導を行う。	夏期・冬期に最低１回ずつ進学補習を実施する。				
	ICT活用	デジタル教材を活用する。	デジタル教材（Webコンテンツ・Studyaid D.B.・TeX・iPadなど）による授業の視覚化・効率化を図る。	全授業の30%以上でデジタル教材を活用する。				

理科	主体性の確立	学習意欲を向上させる。 自ら考え行動する主体性を育てる。	「主体的に学習に取り組む態度」の評価を利用しながら指導する。 各単元において日常生活との関連を取り入れながら、興味を持ち自ら学習を進めていく態度を養い、進路実現に活用する。	「主体的に学習に取り組む態度」の評価で「B」以上の生徒が80%以上かどうか。授業に関するアンケートにおいて、主体性に関する項目の肯定的回答が80%以上となっているか。 大学・専門学校入学試験等で理科を活用する生徒が、進路実現できたかどうか。				
	基礎学力の定着	生徒個々の状況を把握し、基礎学力を身につけさせる。３観点の学力を、生徒の個性・特性に応じて高める。	定期考査や小テストに加えて、授業内外での生徒とのコミュニケーション、アンケート等により生徒の学力や進路目標などを確認し、各単元を段階的に理解していけるような指導を行う。	評定が他教科と比較して低くないかどうか。 授業に関するアンケートにおいて、理解度に関する項目の肯定的回答が80%以上となっているか。				
	生徒情報などの共有	生徒情報を共有し、個別指導および全体授業の設計に活かす。担当教員間の情報格差を減少させる。	様々な学力層および行動特性を持つ生徒が在籍しているため、授業中の様子やそれ以外にも気になったことがあれば教科会等で共有し、指導に反映させる。定期考査問題において、担当教員で出題方針を共有する。	生徒情報の共有に関する教科会議や情報共有の機会をなるべくこまめに、複数回持つことができているか。 講座間で平均点の幅が小さいかどうか。				
保健体育	一人一台端末活用の推進	一人一台端末の利用を積極的に活用していく。	グラフや図など、教科書のQRコードを読み取り活用する。 アンケート機能を活用する。	課題学習の際に、発表資料の作成をタブレット端末やパソコンを活用できるか。				
	主体性を高める	自己の体力における特徴と課題を把握させるとともに、一層の向上を図る。	毎時間の終わりに振り返りを記録させる。 自分の課題を明確にし、次の授業に向かわせる。	振り返りシートにより自己の課題の達成度が授業開始時より向上しているか。				
		各種目の知識理解及び技能向上を図る。	知識テストを実施する。	知識テストの結果。 ルールを理解したゲーム展開ができているか。				
	自立（律）性を高める	安全かつ円滑に授業を進行するとともに、規律ある行動のもと、積極的に身体活動を行う心身の発達を促す。	年度初めに集団行動を実施し、集団での一人一人の行動の責任と重要性を感じさせる。毎時間の授業はじめに整列と挨拶を丁寧に実施する。誰か任せではなく、一人一人が声を出すよう促す。	様々な教育活動の中で迅速な行動、心のこもった挨拶ができているか。				
	チームワーク	笑談をとおして新しいアイデアを創造するチームを目指す。	日々の会話を大切にし、特に生徒の情報交流を細かく行う。その中で現状の生徒に応じた授業内容や行事内容について、昨年度の踏襲だけでなく新たなアイデアを考えていく。	教科会を活用し、生徒の情報共有、授業内容、行事内容の確認を行う。				
英語	学習指導	①主体性（自ら考え行動する主体性が育つ学校）	１年生の英語コミュニケーションⅠ、３年情報科学科（課題研究）でTTを実施して、主体的な態度を育成する。	AETとのＴＴを実施し、主体的にコミュニケーション運用能力を高めることができたか。				
		④学力向上（３観点の学力が向上する学校）	定期的に授業内でリスニング指導を行う。	リスニングの練習・指導を行い、リスニング力を高めることができたか。				
			授業内でiPadやパソコン等を活用する。	授業内で情報機器を活用し、学習に役立てることができたか。				
		⑨進路実現（専門学科の強みを生かした進路を実現する学校）	補習を設定し、学習の機会・学力向上の機会を提供する。	補習を設定し、学習に取り組む意欲を養うことができたか。				
		授業研究（学力が向上する授業研究を進める教職員チーム）	教科指導や授業の改善について、教科会議・小教科会議で研究議論をする。	教科指導や授業改善について、教科会議・小教科会議で研究協議することができたか。				
		サポート（お互いにサポートしあう教職員チーム）	教科内で役割を分担し、業務を円滑に行えるようにサポートする。	教科内で協力し、業務を円滑に行える様にサポート・ポジティブなフィードバックをできたか。				

家庭科	主体性の確立	授業における主体的・対話的で深い学びを実現する	アンケートや3～4名程度のグループワークを取り入れ、積極的な意見交換や発表を行い、振り返りレポートなどをこまめに取り入れる。課題レポートの発表などを通して、情報の共有を行う。	グループワークや意見交換が積極的にできているか。まとめられているか。(ワークまとめ点)				
		体験を通して創意工夫･効率の良い作業やルールを学ぶ。		必要な知識を系統的に吸収し、実践につなげられるか。定期考査に向けて誠実に学習できているか。(段階別考査点)				
	自立(自律)性の	自らの現状や課題を模索し、自立に必要な知識と技術を習得する。	講義、ワーク、実習、振り返り、提出物の完成度などを通して定着の様子を把握する。個人作業や協力作業を取り入れ、コミュニケーションを取りながらスムーズに作業できるよう促す。	現状と課題が把握できているか。提出物が指示通りできているか(レポート点提出物点)実習や作業が協力して、また個人の目標達成できたか。(実習点)				
		意思決定の重要性を知り、適切な情報、資料の読み取りができるようにする。	視覚教材や資料を活用し、身の回りに起こってる多様な状況を知らせることで課題意識を持たせ、自己決定の判断材料とする。	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取り内容を論理的に説明できているか(段階別考査点)				
	進路実現	社会情勢を知り、知識を蓄え、自分の言葉で現状と課題解決に向けての意思表示ができるようにする。	同上	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取りと現代の課題を結びつけ、自分の言葉で意思表示できているか。(段階別考査点、レポート点)				
			生活に関わる情報をリアルタイムで提示し、その都度考えをまとめる等の意思表示ができるよう促す。					
情報	学校目標	自ら考え行動する主体性を育てる学校	・授業と家庭学習を連動させた学習習慣の確立 各授業において、「授業内の学習→家庭学習→次回の授業」が一連の流れとして成立するような授業設計を行う。（Teamsやスタディサプリを使用した家庭学習）	家庭学習の定着率。				
			・専門性を強みにしたキャリア教育 進路指導部と連携し、情報に関する職業について具体的に知る機会を増やせるよう、企業等と連携を図る。	各学年で職業について知る機会を作る。				
	学校目標	専門的知識とスキルを育成する学校	・情報系国家資格の高い合格目標達成 新たな検定試験の体制を整えつつ、授業内や検定補習を利用して生徒の実態に合わせた個に応じた指導を実施する。	国家資格や検定において、昨年度の合格率を上回る。				
			・DXハイスクール指定校としての取組推進 生成AIを正しく使う等、DXを体験し使いこなす力を育成する。	DXハイスクール成果指標において、学期末の値が学期初めの値を上回る。				
			・協働的な探究学習の充実 課題研究における探究学習の充実はもちろん、情報科での学びを京都すばるデパート等の活動に生かせるよう連携を図る。	探究学習の成果発表の場を増やす。				
	教職員チーム	学力が向上する授業研究を進める教職員チーム	・総合型選抜に関する組織的な指導体制の構築 早い時期から学年部や進路指導部と連携を図り、プレゼンテーションや課題作品等の個別指導のシステムを円滑に進める。	学年部や進路指導部とスケジュールの調整や問題点について連携と取ることができた。				

商業	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		専門性を身に付けさせる（専門科目）	①１年生商業学科群に対し、適切な学科選択を行うために専門科目での授業連携を図る ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ③進路実現を見据えた検定試験取得や各種コンテスト応募のロードマップを提示し、生徒の主体的なキャリアの積み上げをはかる ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①生徒アンケート（学科選択の満足度） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験の合格率(全国平均以上)、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）				
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況				
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する	①②③④年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）				
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容				
		情報を共有して情報格差の無い教職員チーム						